

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果から

## 1. 全国学力・学習状況調査の結果について

### <国語>

○他の領域と比べると、「読むこと」、「話すこと・聞くこと」に関する問いの正答率が高かった。

▲漢字を文の中で正しく使う、目的や意図に応じて文章にするなどの「書くこと」に関する問いや、相手や場面に応じて敬語を正しく使うなどの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する問いの正答率が低かった。

### <算数>

○他の領域と比べると、「量と測定」に関する問題の正答率が高い。

▲文章問題や、知識の活用に関する問題において正答率が低い。また、無回答のものも多い。

### <理科>

○他の領域と比べると、「エネルギー」や「物質」に関する問題の正答率が高い。

▲複数の資料から情報を読み取ったり、既習事項を結びつけたりして解く問いの正答率が低い。

### <児童質問紙> ○→全国平均を上回った項目 ▲→全国平均を下回った項目

◎自分には、良いところがある。 ◎将来の夢や目標を持っている。 ◎朝食を毎日食べている。

◎学校のきまりを守っている。 ◎学校の授業以外の1日あたりの読書時間（漫画、雑誌等を除く）

◎地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする。

▲毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 ▲家で学校の授業の予習・復習をしている。

▲学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 ▲新聞を読んだり、ニュースを見たりする。

## 2. 成果と課題に対する今後の取組について

### <成果>

・国語の「読むこと」に関する問いの正答率の高さは、読書カードの取組、朝の読み聞かせ等の成果と考えられる。「話すこと・聞くこと」に関しては、1分間スピーチなどの意図的な発表の場の設定、話す・聞く態度への指導の積み重ねの成果と考えられる。

・児童質問紙の結果から、生徒指導の積み重ねの成果や、保護者の方や地域の方のご協力もあり、多くの児童が前向きに学校生活を送ることができていることがわかる。

### <課題と今後の取組について>

・国語に関して、習得した漢字を読んだり、書いたりする機会を、意図的に設定し、児童が漢字を身近なものとして捉えられるようにする。書く活動では、書く目的や相手に応じた書き方を意識させる。

・普段の生活から敬語を意識して使うよう指導することを今後も継続していく。

・算数に関して、文章問題の類題を解き、反復練習を行う。作業からの実証を大切にしたり、日常生活での経験や興味・関心を関連づけていく。

・理科に関して、系統的な単元計画を作成し、既習事項を想起・確認しながら学習を行っていく。学んだことを活かした発展的な実験を、教師が見せたり、動画で見せたりすることで、興味・関心を持って今後の学習に取り組んだり、身の回りの環境の変化や事象との関連に気付けるようにする。

・取り組んだ家庭学習のがんばりを認めたり、「e ライブラリアドバンス」の家庭学習サービスの良さを発信したりすることで、家庭での継続的な復習を励ましていく。